

平成 27 年度市民の部活 報告書

実施日	平成 28 年 1 月 22 日 (金)	会 場	光市地域づくり支援センター ロビー
時 間	13:30~15:00		
行事名	市民の部活 (元気なまち協働推進事業交付団体紹介)		
講師 (団体名)	仲山哲男 さん (光☆古代人の会)		
主催	ひかり市民活動ネットワーク 光市		
参加者名 (人数)	一般参加 4 人 光☆古代人の会メンバー 8 人、小林 (記)、林 (事務局)、 14 人		

1、内容

①「光☆古代人の会」の活動紹介

・「土器修復講座」受講者が講座で学んだ技術を活かして活動を続けるために 6 年前に会を発足した。

・毎月第 2、4 金曜日に光市東部いこいの家で活動をしている。

・活動は土器修復技術のスキルアップ、発掘土器等の修復復元、古代技術の再現 (塩づくりなど) などである。

・教育委員会の出前講座の補助として、古代人の衣装をつけて参加している。石器 (石包丁) を再現製作し、出前授業で使用体験 (イネの穂刈) もしている。



撮影 仲山哲男

②体験：土器接合トレーニング

・トレーニング用に焼いた素焼きの器を数個割って一緒にする。

⇒破片を色、形をみて器ごとに分ける。

⇒破片を組合あせて、組み合ったところをピンチでとめる。

⇒接合順序を考えながら、接合面を刷毛できれいにして接着剤で接着する。

⇒はみ出た接着剤などを拭う。

＊上記作業を光☆古代人の会メンバーと参加者とが組になってすすめた。



撮影 仲山哲男

③参加者の感想とメンバーの現在の思い

《参加者》

・初めての体験でとても楽しかった。知らない世界を知ることワクワクした。

・光市の遺跡についてよく知らないので、例えばそれをマップにするのはどうだろうか。どの時代にどこにどのくらいの人が住んでいたのか、その移り変わりのわかるマップ、あるいは地形そのものも変わってきているだろうから、その変化がわかるマップがあったら、光市をまた違った目で見ることができるのではないだろうか？

《光☆古代人の会メンバー》

・光市文化センターには未整理の発掘品がたくさんある。それを何とか整理する道をひらきたいと考えている。

・文化センターの展示は旧光市内の資料だけで大和地区のものは展示されていない。大和地区のもの展示、さらにその展示方法の工夫も、文化センター・教育委員会に協力してやっていきたい。

←それについて参加者から

・小学生は一度は文化センターを見学しているがそれがその後の興味につながらない。子どもの見学はきっかけとしては必要だが、大人対象の「講座」やワークショップで光市古代遺跡や文化センターとその展示に興味をもってもらおうと協力者も増えるのではないだろうか。

3、所感

・今年度「市民の部活」はじめての体験形式だったが、説明を聞くだけでは実感のわかない気持ちの部分の共有ができた。

・生涯学習（社会教育）グループが市民活動の視点を持ち、行政（教育委員会・文化センター）とつながっていく例を紹介できた。こうした視点をもつことで、さらに多岐にわたる「市民」活動の展開が期待できる。それに合わせた「市民活動、講座」も考えたい。

・手を動かしながら、あちこちのグループで会の活動についての説明、そこから発展して公民館活動やそのプログラムについての意見交換、講座参加者自身のさまざまな「学び」の紹介など、意見交換と交流がなごやかな雰囲気の中でなされた。毎週の交流カフェや「市民の部活」のひとつのあり方を示すことができ、今後に活かせるものとする。